

番号	7	事業名	補完的な道路の整備			市町村名	大町市		路河川名	(都)三日町犬ノ窪線	箇所名(ふりがな)	俵町(たわらまち)				
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	<p>・大町都市計画道路は、昭和26年に当初都市計画決定を行い、昭和38年に大規模な変更決定を行って以降大きな変更はなく、社会経済情勢の変化等に合わせた都市計画道路網の見直しが課題となっていた。</p> <p>・大町市では平成19年に未整備区間が存在する都市計画道路について、必要性が高く実現性の面で問題のない区間と、社会情勢の変化により整備の必要性が低くなり見直しが必要となった区間に仕分ける見直し作業に着手した。見直しが必要とされた区間について、自治会説明会等を通じて住民との合意形成を経て、路線の廃止、区間の変更等の都市計画変更手続きを平成22年度に行っている。</p> <p>・当路線については、都市計画道路としての必要性が高く実現性の面で問題のない路線に区分され、さらに地元からの整備の要望が強く、早期の事業着手が求められていた。</p>													事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)	評価	
	<p>○生活環境の変化</p> <p>交通管理者と協議を行い、当事業に併せ自転車通行帯を設置した。自転車と歩行者を分離することで、高齢者や通学する児童も安心して歩ける歩行空間を確保した。</p>													A		
事業目的	○当路線は、黒部ダム及び大町温泉郷への観光道路であるため路線バスや観光バスなどの大型車の往来が多く、沿道周辺には大町北小学校及び借馬住宅団地などがあるが歩道がなく交通環境の改善が求められていたことから、道路拡幅により円滑な交通を確保するとともに、歩道の整備により安全な都市内環境の形成を図るものである。													施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)	評価	
事業概要	当初工期	H22～H26	費用対効果(当初時)	3.11	事業費(千円)	財源内訳(千円)				○維持管理状況 道路の維持管理については、道路パトロール等で適切に実施している。			B			
	最終工期	H22～H27	費用対効果(評価時)	1.71	上段:当初/下段:最終()は国補事業分以内	国庫	その他	県債	一般財源							
	当初計画内容(主な工種)	道路拡幅工L=600m W=6.0(16.0)m			400,000	0	40,000	0	360,000	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)			評価			
	最終事業実績(主な工種)	道路拡幅工L=709m W=6.0(16.0)m (内交差点擦り付け部L=109m)			804,617	0	80,462	0	724,155	○地域住民等の評価 アンケート調査結果より ・歩行者の安全性、車両の円滑な通行について、9割以上の方から評価を受けている。 ・景観や生活環境について、9割以上の方から評価を受けている。			A			
事業期間の延長、短縮理由と分析	付加車線設置に必要な事業区間の延長に伴い、事業期間を1年延伸した。													④地域住民等の評価		
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	当初、事業区間の起点は(国)148号との交差点としていたが、(国)148号を挟んだ対面側に(主)扇沢大町線の未改良区間があり、交差点を挟み道路中心線の食い違いが発生し危険であることから、付加車線(L=107m)の追加整備が必要となった。また、用地及び補償物件の詳細な調査により、用地補償費が増となった。													改善措置の必要性		
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成)											評価				
	直接的効果(定量的・定性的)	○交通の利便性 道路の拡幅及び付加車線の設置により、円滑な交通が確保された。											B			
		○交通の安全性 歩道と車道の分離により、安全な歩行空間が確保された。 【交通事故件数の推移】 開通前5ヶ年(H23～H27)の平均事故件数 : 1.2件/年 開通後3ヶ年(H28～H30)の平均事故件数 : 0.3件/年														
間接的効果(定量的・定性的) ※事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	○交通機能以外の道路機能としての効果 両側に歩道を有する街路事業整備により円滑な交通機能の確保といった直接的効果以外に、景観面から良好な都市環境が確保された。また、幅広の道路幅員により、大規模地震発生等の有事の際における延焼防止や緊急避難路としての機能が向上するなど、周辺地域の都市防災機能の向上に寄与している。 ○周辺観光地等への影響 当路線は、当地区の主要な観光地である黒部ダムへの主要なルートであるが、当事業の整備前後における黒部ダムへの観光客数の平均を比較すると観光客は増加しており、周辺観光地の活性化に寄与している。											建設部公共事業評価委員会の意見	大町市街地の円滑な交通が確保されるとともに、小学生をはじめとする歩行者の安全の確保が図られており、事業目的が達成され地域住民の評価が高いなど総合評価Aが妥当と判断する。	総合評価	A	
													長野県公共事業評価委員会の意見	建設部公共事業評価委員会の意見が妥当であると判断する。	県の評価案	妥当
															評価監視委員会意見	妥当
															評価の決定	A